

都道府県ニュース

What's happening in your district

東京都春季 PL 大会

報告：東京都協会技術委員長

IPF 国際審判 物江毅



今年度の東京都春季大会は PL と BP を共催し、4/30 小平市民総合体育館で開催された。愛媛国体の東京予選も兼ねた当該大会、PL で 76 名、BP で 57 名のエントリーとなり競技開始 11:00、終了 19:00、散会 20:00 の大盛会であった。

開会式では作家で異色のマルチリフター&アスリート 木下裕司選手（スパインハウス）が、素晴らしい選手宣誓を披露して下さり、試合が始まった。

PL の部 女子の部

今大会女子選手が 16 名エントリー&出場、1 グループでは収まらない嬉しい悲鳴であった。

52kg 級一般の部では、後述のご主人・琢磨選手と夫婦で出場した木村美英選手と、佐藤佳奈選手、さらに公式戦初出場となるミュージシャンでプロレスラーのマルチタレント・田中垂弥選手が接戦を演じ、会場から盛んな拍手を浴びていた。木村さんは SQ 85kg、佐藤さん、田中さんは 80kg、BP では佐藤さんが 50kg、木村さん、田中さんが 42.5kg とし、Sub TL で佐藤さん 130kg、木村さん 127.5kg、田中さん 122.5kg とほぼ横一線。結局 DL 第二試技で 130kg の東京新を引き切った木村さんが TL257.5 で優勝、二位佐藤さん 255kg（体重が木村さんより 960g 軽くベストリフターを獲得）、3 位田中さん 232.5kg という結果となった。

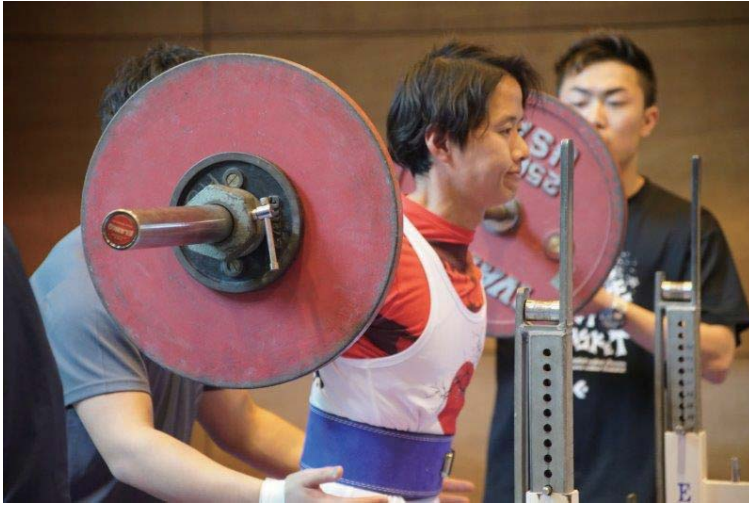
57kg 級一般の部では、新団体 Team Raws の上林理沙子選手が全試技成功、抜群の安定感で TL260kg の優勝。このクラス 2 位には 2 年ぶりの競技復帰となる津金典子選手が、こちらも八試技成功と頑張り TL225kg で入った。

63kg 級の優勝は石曾根直子選手、こちらも八試技成功で TL282.5kg、本日の女子の部最重量 TL で見事に優勝した。

男子の部

59kg 級では、若手とベテランが頑張った。

Sub JR の小西健心選手はお父さんの裕司さんと親子で出場。2003 年生まれ 14 歳、大会初出場であったが、パワーハウスの諸先輩リフターからの声援を受け、落ち着いた態度で 7 試技成功、SQ では 105.5kg の東京新記録に成功、



TL も 295.5kg と 300kg の大台にあと一歩と大健闘。

同級 J R では池田健太郎選手が B P で 90kg の東京新に成功した。

同級 M 1 で優勝した都大会定連の富田英吉選手は S Q 142.5kg、T L も 402.5kg の東京新に成功、59kg 級全体順位でも一般の部で優勝した溝尾元洋選手 (T L 417.5kg) に次いで 2 位となり、6/11 の国体関東ブロック予選への出場権をゲットした。

同級 M 3 でも、やはり都大会定連の川上京司選手が D L 第三試技で 157.5kg を見事に引き切り、T L 367.5kg の東京記録で優勝。カレンダーイヤー 67 歳にしてまだ記録が伸びており、外観もとても若々しい。後述するが娘さんの茉佑さんも B P で東京新に成功した。

66kg 級では、2 年前の和歌山国体 3 位・木村琢磨選手と昨年の岩手国体 5 位・上田孝道選手の対決が注目された。S Q は両選手とも 195kg、B P に入ると得意とする木村さんが第三試技で 155kg に成功、上田さんは 125kg で Sub TL は 30kg 差、上田さんは DL が強く、まだ勝負は判らない。その DL 木村さんは

200-220 と順調に成功、一方の上田さんは 230-240 をいずれも引けず、失格の危機。第三試技で木村さんが 230 に失敗、TL570kg (東京新) で競技を終えた (今大会ベストリフター獲得)。対する上田さん、挑戦重量は 240kg のままで、逆転をあきらめ、生き残りに賭けた試技であったが、残念ながらバーベルは浮かず失格。

同級 M 2 には今年から M 2 となった都大会定連・赤坂義昭選手が 4 試技のみ成功と、やや安定感に賭けたが、T L で 417.5kg の東京新記録を樹立。

同級 M 4 に出場した木島捷行 T P A 理事はカレンダーイヤー 73 歳であるがまだまだ健在で、S Q 150kg の東京新記録に成功した。

74kg 級では、公式戦初出場・カレンダーイヤー 71 歳・M 4 の放生選手が B P で 115kg の東京新に成功した。

83kg 級は岩手国体 2 位、岡崎ジャパンクラシック P L 大会 5 位の強豪・永井肇選手が得意の D L でやや精彩を欠いたが T L 620kg で 2 位に 45kg 差をつけて優勝、地力の違いを見せつけた。

同級 M 4 にはカレンダーイヤー 75 歳、今大会最年長・佐藤喜次郎選手が登場。独特のナローグリップ・ノーブリッジ、足台二枚使用の B P には、会場から驚嘆の声が上がった。「この大会を公式戦最後にしたい」と試合前喜次郎さんは語っておられたが、まだまだこれからも M 5 になられても都大会にご出場いただきたい旨、お願いをした。

重量級では全体に記録がやや低調であったが、93kg 級で T X P の古賀友太郎選手が T L 640kg、105kg 級で軍司和貴選手が T L 600kg、120kg 級で岩波吾猛選手が T L 612.5kg でそれぞれ一般の部優勝。

120kg 級 M 1 に出場にした中村敏雄選手は、S Q 225kg B P 165kg D L 215kg T L 617.5kg の全種目東京新記録を樹立。一般の部を上回る T L で

都道府県ニュース

What's happening in your district

都道府県ニュース

What's happening in your district

優勝した。

BP 女子の部

47kgの JR に出場した川上茉佑選手は、PL の試合を終えたお父さんの京司さんの好サポートを受け三試技とも成功、東京都 JR 記録 55kg に成功した。

52kg級の井田聖子選手は、新団体チームミラクル (昨年までの江戸川グリーンパワー会が名称変更) 所属として出場。本日の女子最重量となる 62.5kg で優勝。

72kg級 JR の真田理沙子選手 (帝京平成大学 SA) も 47.5kg の JR 東京新記録で優勝した。

BP 男子の部

59kg級一般の部で優勝した井野朗宏選手は 56.1kg の体重で 130kg に成功、F.P も 118.14 と高ポイントであった。

66kg級一般は、石田宜央選手、高橋勇二選手、カルロス福田選手の三つ巴の戦いとなり、とても見応えがあった。結局第二試技で 150kg に成功した石田さんが優勝、147.5kg で高橋さんが 2 位、第一試技 135kg のみ成功であったカルロスさんが 3 位という結果となった。

同級 M4 で優勝した江戸川のドン・田中勉選手 (チームミラクル) はカレンダーイヤー 71 歳ながら強さは健在で 110-120-122.5 (東京新記録) と三試技とも成功、本当に頭が下がる思いである。

74kg級に神奈川からオープン参加した松本健一郎選手は、かつて全日本 BP 大会の定連で、昨年 11 月の JCBP 大会で久しぶりに全日本大会復帰を果たし、今回も 170kg に成功し健在ぶりを見せつけた。神奈川の団体戦チーム BP 大会にはよく出場しておられる様で、まだ 42 歳の若さである。これからもどんどん全日本クラスの BP 大会にご出場いただきたい。

83kg 級一般の部は山村清展選手と尾島裕選手の優勝争いとなり、尾島さんが第一試技 140kg に成功し先行したが、第二、三試技で 145-150 に成功した山村さんが優勝、二位尾島さん、以下 7 位まで 120kg 以上に成功となかなかのハイレベルとなった。

93kg級一般の部は吉田幸隆選手 (サンプレイ) が、抜群の安定感で 160-170-172.5 と三試技とも成功で圧勝。

同級 M1 に出場した池澤幸泰 (TXP) は、故障上からの復帰戦となった今回、練習で確実に挙げていた 160kg をあと一歩押し切れず、ご自身は不満が残る 157.5kg での優勝であった。

同級 M2 には定連の渡部隆俊選手が登場、第一試技 160kg のみの成功、ノーギア BP 界で国内有数の強豪である渡部さんにとっては、やや不満の残る結果であったろうか。

同級フルギア M3 に出場したベテラン・飯島修選手は第一試技 190kg を確実に獲り、第二、三試技で 200kg の大台に挑んだが、やはりあと一歩押し切れず失敗という



女子の戦いもハイレベルになってきた。

結果であった。

105kg級 M1 では、吉田啓英選手 (帝京平成大学 SA) と松沼光紀選手 (TXP) がガチンコ対決。140-155-165 と確実に三試技獲った吉田さんに対して、155-165 と成功した松沼さんは、第三試技 172.5kgに挑んだが、グリップ不完全という審判の判断で無念のリプレイス&タイムアウトとなった。試合後ご自身の Facebook に「これからは誰が見てもサムア라운드グリップと判断してもらえるフォームを目指す」とコメントしておられた。

団体戦女子は；

優勝 Team Raws 57 点

2 位 帝京平成スポーツアカデミー 36 点

団体戦男子は 7 チームエントリーで接戦となった；

優勝 パワーハウス 60 点

2 位 スパインハウス 60 点 (F.P の合計差による)

3 位 TXP 54 点

4 位 帝京平成スポーツアカデミー 50 点

5 位 チームミラクル 45 点

6 位 立川トレーニングセンター 39 点

7 位 Team raws 33 点

という結果となった。

今大会は 9 月の愛媛国体の予選を兼ねており、国体出場を目指すリフターのエントリーが多かったものと思われる。



都道府県ニュース

What's happening in your district

都道府県ニュース

What's happening in your district

私はBコートの Good lift 操作、MC、賞状打出し、試技写真撮影等で進行席付近に張り付き、食事をする時間もなかった。大会役員の絶対数が不足しており、毎回業務についてくださる役員・審判員の方々にも大変なご負担をおかけしている現状について、秋の大会までには何とか状況改善をしていきたいと思っている。

従来弊協会は賞状の名前・記録・順位等を手書発行していたが、今回、J P A 技術委員会阿南委員長からご提供&ご指導いただいた最新 Good lift ファイルによる賞状印刷を行い、PL の部は何とかこなしたが、BP の部の賞状打ち出しでプリンターが不調となり、約半分の BP 選手に当日賞状を渡せなかった。秋の大会では改善して選手各位にご迷惑をかけない様に、大会運営を行いたい。

今回Bコートで審判デビューした小林展代さん (TXP) は、若干 20 歳の大学生、かつ JR 世界 PL 大会にも出場の現役選手である。BP の際に主審を勤められたが、とてもメリハリがある堂々たる主審ぶりであった。選手及び審判として頂点に立っている吉田寿子さんや北村真由美さんの様な素晴らしいアスリート&レフリーを是非とも目指していただきたいと「ノンちゃん」の Facebook にメッセージを入れさせていただいた。

弊東京協会は、本年創立 40 周年を迎え、年明けの来年 1 月には記念行事開催を予定している。

秋の都大会は今回同様 PL&BP 大会を、新装なった駒沢屋内球技場で開催予定である。
今回以上の盛会としたい。

最後に出場選手の皆さん、及び今回 22 名の補助員を派遣して下さった関東学生 PL 連盟にお礼を申し上げてレポートを締めさせていただきます

「選手及び関東学連の皆さん、長時間本当にお疲れ様でした！これからもよろしくお願い致します！！」

団体3位、TXP。東京をまとめるジムに成長

